



# ほんわ館だより

令和8年6月発行  
第165号

中山町立図書館  
開館 9:00~19:00  
休館日 6/1.8.15.22.29



## 6月の展示コーナー

★おすすめコーナー  
『ダイエット・美容』

★児童書コーナー

- ・絵本コーナー 『はれるといいな』『のりものあつまれ!』
- ・円形コーナー 『生きもの』
- ・空中図書コーナー 『ようかい』
- ・小学生おすすめコーナー 『ひみつの本』
- ★2階掲示板 『ちょっと雨宿り』



雨の日はほんわ館でのんびり本の世界に浸ってみませんか?

## 今月のおはなし会

6月20日(土)  
11:00~11:30  
場所:ほんわ館多目的室

ほんわ館ファン募集中です!!  
ご興味のある方はお気軽にカウンターにお問い合わせください。  
いっしょにほんわ館を盛り上げましょう。

## ほんわ館からのお願い

梅雨の季節になりました。雨の日に注意していただきたいのが本の取り扱いです。“少くらの雨なら本を抱えて走れば大丈夫”と思っていたら本が濡れてしまったという経験はありませんか?濡れてしまうとシミができてたりゆがんだりして、次の方が気持ちよく読めなくなってしまいます。雨の日は本をビニール袋に入れるなどして濡れないように心がけましょう。

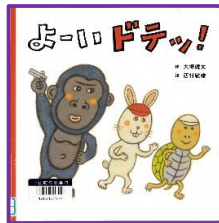
## 新着 最近入った本を紹介します

※ここに紹介した他にもたくさん入っています

### 【児童書(えほん)】



◀『きゅうしよくのじかん』  
加藤 休ミ // 作 絵  
Gakken



◀『よーいドテッ!』  
大塚 健太 // 作  
西村 敏雄 // 絵  
パイインターナショナル



◀『学校』  
有田 奈央 // 文  
さきゆう // 絵  
新日本出版社

【文芸書】書名	編著者名	【児童書】書名	編著者名
豆は煮えたか	朝井 まかて // 著	まゆとごちそう春夏秋冬	富安 陽子 // 著
天領の鷹(上・下)	村木 嵐 // 著	ふしぎ駄菓子屋銭天堂5	廣嶋 玲子 // 著
人はなぜラブレターを書くのか	石井 裕也 // 脚本	謎解き怪盗団シュロス	雨露 山鳥 // 著
葉をはさむように休めばいい	詩旅紡 // 著	解けるとこわい謎解きゲーム	吉岡 みつる // 文
目覚めると、ひとりだと気づく	阿川 佐和子[ほか] // 著	理科のなぞ解き大作戦 6	となりのきょうだい // 原作
伝説探偵—山形県怪異譚調査録—	渡辺 大輔 // 著	【教養書】書名	編著者名
コズミックガール—宙わたる教室—	伊与原 新 // 著	大関 和	田中ひかる // 監修
血は争えない	深町 秋生 // 著	生きていく、軽やかごはん	山脇 りこ // 著
あの人と、あのとき、食べた。	榎野 道流 // 著	AIとデジタルで思い出を永久保存する本	AIビジネス研究会 // 著
異常に非ず	桜木 紫乃 // 著	食堂巡礼	小川 糸 // 著
秘中の天	佐々木 功 // 著	夜を戦う	北野 新太 // 著
眠れぬおまえに遠くの夜を	桐野 夏生 // 著	有名人の愛読書、読んでみました。	ブルボン小林 // 著
あの日、僕と君が見た空は	望月 麻衣 // 著	鶏むね2kgを使い切り!	倉橋 利江 // 著
空き家と移住	垣谷 美雨 // 著	大丈夫さ	財津 和夫 // 著

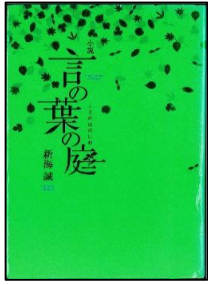


# 本の歳時記



## —雨の日には読書を—

梅雨のシーズンが訪れました。例年なら6月中旬頃から1カ月余り続くでしょうか。でも去年は、梅雨入りはしたものの雨は少なく、いつの間にか明けていました。地球温暖化の影響か、近頃は例年という基準が当てにならなくなっているようです。梅雨に入ると毎日ジメジメと蒸し暑い日が続きます。そんな日は、ほんわ館で「クールシェア」。ゆっくり読書を楽しんでみてはいかがでしょうか。今月は雨のシーンが印象的な三つの作品を紹介します。



『小説 言の葉の庭』

### 『小説 言の葉の庭』(新海 誠//著 KADOKAWA)

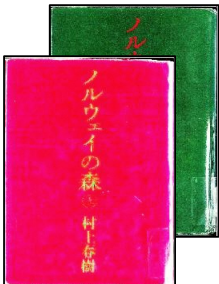
靴職人を目指す高校生の孝雄。雨の日は学校をさぼって公園の東屋で靴のスケッチをすることになっている。ある雨の日の朝、謎めいた女性、雪野と出会います。同名のアニメーション映画を監督自らが小説化。映画では描ききれなかった登場人物の描写が加わり、ストーリーに一層深みを与えます。勿論、アニメ映画を見ていない人にも、雨の日に出会った二人の、ひと夏の物語は多くの感動を与えることでしょう。一話毎に登場人物の心を表すように万葉集の歌が入れられ、映像作品と同じく雨の描写が続きます。



『西の魔女が死んだ』

### 『西の魔女が死んだ』(梨木香歩//著 小学館)

梅雨入り宣言が出た次の日、まいは西の魔女が危篤だと知らされる。ちょうど2年前、中学に進んでもまもなく、学校へ足が向かなくなったまいは、西の魔女のもとで過します。西の魔女はママの田舎の母、つまりおばあちゃんて英国人です。まいは、その魔女の元で暮らすことになり、魔女の修行を始めることに…。その修行とは、何でも自分で決めるということ、喜びも希望も、もちろん幸せも。まいの豊かな感受性に合わせるように、細部まで作り込んだ物語の世界に引き込まれ、時間を忘れて読んでしまいます。



『ノルウェイの森』

### 『ノルウェイの森 ①・②』(村上春樹//著 講談社)

37歳のワタナベは、冷たい雨の降るハンブルグ空港に降り立った。旅客機の天井から流れてくるビートルズの「ノルウェイの森」のBGMをきっかけに、18年前の記憶が次々と溢れてきます。高校生の時に親友のキズキを自殺で失い、大学に入りキズキの恋人だった直子と偶然再会し、そこから彼女との物語が始まります。1960年代の東京で、大学生活を送る内向的で学生運動にも関心を示さず孤独を愛する青年は、彼女との出会いによって次第に殻を破っていきます。この物語は、冒頭からしっとり雨が降り続けている印象があります。この本のタイトルの原案は、ドビュッシーの楽曲から由来した「雨の中の庭」だったとのこと。なるほど、雨が印象的なものも頷けます。

## ほんわ館で読まれています

### 『おかしのまちのおかしなはなし』

(いわさきさとこ//作・絵 フレーベル館)



あるところにお菓子の町がありました。ここでは、和菓子と洋菓子たちが、お菓子を売って暮していますが、いつもけんかばかり。そんなある日のこと、和菓子でも洋菓子でもない“誰か”が引っ越してきて…

### 『謎の香りはパン屋から2』

(土屋うさぎ//著 宝島社)



念願の漫画家デビューが決まった小春は、相変わらずパン屋でアルバイトを続けていた。新人の高校生も加わり、毎日でもシフトに入るという彼女だったが、辞職の申し出が…。

### 『憤怒の人』

(杉山響子//著 小学館)



母はかなわん人だった。うるさい人だった。私は私が知る母のすべてを書こうと思った…。作家・佐藤愛子を母にもつ著者が、102歳の愛子の今と思い出をユーモアとペースオタっぷりに綴る。

### 『誓いの証言』

(袖月裕子//著 KADOKAWA)



旧友・久保の依頼を受けた弁護士の佐方。女性から不同意性交等罪で訴えられたが無実だという。だが女性が彼を嵌める動機が見当たらない。2人の接点を探ろう。過去の死亡事故が浮上し…。